

## 国際会議報告

## アジア交通学会第2回大会 EASTS'97

THE 2ND CONFERENCE OF THE EASTERN ASIA SOCIETY FOR TRANSPORTATION STUDIES

石黒 一彦<sup>1</sup>・稲村 肇<sup>2</sup>

Kazuhiko ISHIGURO and Hajime INAMURA

<sup>1</sup>正会員 修(情報) 東北大学助手 大学院情報科学研究科(〒980-77 仙台市青葉区青葉)<sup>2</sup>フェロー会員 工博 東北大学教授 大学院情報科学研究科

## 1. はじめに

アジア交通学会 EASTS (Eastern Asia Society for Transportation Studies) の第2回大会が韓国のソウル市にあるシェラトンウォーカーヒル・コンベンションセンターにて、1997年10月29日から31日の3日間にわたって開催された。

EASTS はアジア地域における交通関連分野の研究及び実務のサポートと専門家の交流を目的とし、1994年に日本のアジア交通学会が中心となって設立された各国国内交通学会の集合体である。第1回大会はフィリピンのマニラ市にて開催されている<sup>1)2)</sup>。

## 2. 大会の概要

今回の大会の主催は韓国の大韓交通学会であった。この大会では23の分野にわたり15カ国から合計179編の論文が発表された。テーマ別及び国別発表者数は表-1、表-2の通りである。この大会に先だって国際学術委員会(ISC, 委員長: 稲村肇)により論文審査が行われ投稿172編の中から154編の論文が論文集に掲載されることとなった。更に自由投稿部門を別に設け、こちらには25編の投稿があり、講演集としてまとめられた。前回の第1回大会の発表論文総数103編から、大きく増加したことから、この分野の研究に対する興味の高さや期待の大きさが伺える。特に今回は日本や韓国ばかりではなく、インドネシア、マレーシア、ベトナムといった東南アジア諸国からの投稿数の増加も目立った。

日本からは、中村英夫 EASTS 会長(運輸政策研究所 所長, 東京大学名誉教授)をはじめ70名を超える方々が参加した。中村会長は開会式においてスピーチ及び“Historical Development and Future Direction of Eastern Asian Ports”というタイトルでの基調講演をなされた。基調講演では、東アジアを中心に海運と港湾、そして

港湾都市の発展を歴史的に概観し、さらに海運・港湾の分野における今後の展望が示された。これは、東アジア各国の近年の発展が海運とそれを支える港湾によるところが多い点、今後の各地域の発展の可能性もこれにかかっている点等の社会的な背景をふまえた上で選ばれたテーマであり、この分野の研究の新たな展開を期待してのものであった。

大会では10月29日、30日の両日合計6時限にわたりそれぞれ6会場並行で各論文の講演会が行われた。1人当たりの持ち時間は発表10分、質疑5分であった。発表論文の中から以下の3編に対して、論文賞選考委員会(委員長: 林良嗣名古屋大学教授)よりEASTS論文賞が贈られた。

- 1) “Determination of Yard Scale and Relevant Operation Facilities at Station”  
by Li Guoquan (CHINA) and Chishaki Takeshi (JAPAN)
- 2) “Hybrid Route Choice Procedures in a Transport Network Context”  
by D’Este Glen (AUSTRALIA)
- 3) “Assessing Driveway Impact Using Microscopic Simulation Models”  
by Choi Dae Soon and Shin Chi-Hyun (KOREA)

10月30日には“テーマ1: Comparison of tax and/or charges on automobile and/or traffic in Eastern Asia countries”と“テーマ2: Public Transit in Major Cities (except the capital cities) in Eastern Asia”の2つのパネルディスカッションが開催され、日本からはテーマ1に筑波大学の石田東生教授、テーマ2に立命館大学の塚口博司教授がそれぞれパネリストとして参加された。

大会最終日である10月31日には、現在建設中で2000年8月に供用開始予定のインチョン国際空港の建設現場の見学会が催され、各国から計44名の方々が参加した。この国際空港はインチョン市沖の2つの島の間を埋め立てて造成した長さ8km、幅5kmの土地に4,000m滑走路4本が計画されているものである。スライドや

表-1 テーマ別発表者数

テーマ	論文数
1. Railway Planning and Operation	5
2. Urban Railway and Engineering	8
3. Airport Planning and Operation	7
4. Containerized Port and Its' Operation	7
5. Port Planning and Operation	6
6. Highway Planning and Design Concept	5
7. Traffic Accident and Road Safety	5
8. Road Maintenance and Pavement Design	11
9. Road Management and Parking Problems	8
10. Road Network Modeling	5
11. Physical Distribution and Logistics	11
12. Energy and Environmental Challenges	11
13. Public Transportation and Its Policy	10
14. Public Transportation and Bus Services	8
15. Paratransit and Non-motorized Transport	9
16. Traffic Assignment and Modeling	8
17. Traffic Control and Its Policy	6
18. Traffic Demand Analysis and Forecast	7
19. Traffic Flow Analysis	7
20. Traffic System Management	11
21. Land Use and Spatial Analysis	10
22. Privatization and Financing	6
23. Implementation of ITS	8
合計	179

表-2 国別発表者数

発表者所属国	論文数
1. AUSTRALIA	12
2. CHINA	9
3. HONG KONG	6
4. INDONESIA	16
5. JAPAN	64
Japanese	51
Non-Japanese*	13
6. KOREA	21
7. LAO	1
8. MALAYSIA	9
9. PHILIPPINES	9
10. SINGAPORE	2
11. TAIWAN	14
12. THAILAND	4
13. VIETNAM	7
14. BANGLADESH	3
15. UNITED KINGDOM	2
合計	179

\*note: The first author; including non-Japanese scholars and students

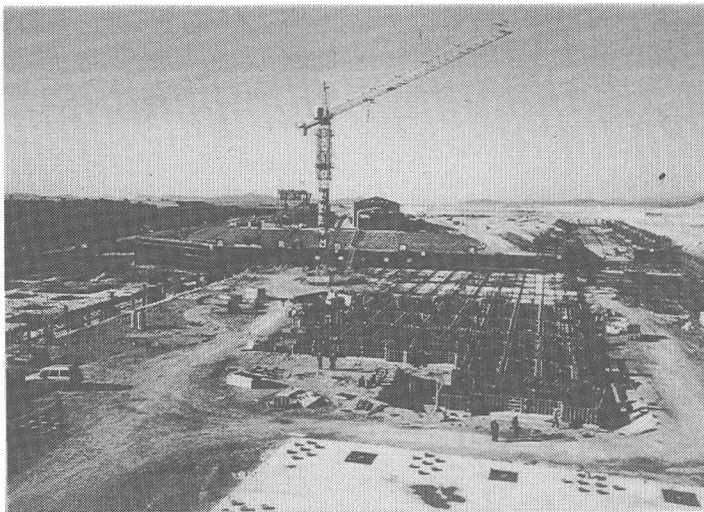


写真-1 インチョン国際空港旅客ターミナル建設現場

ビデオによる概要紹介の後、滑走路舗装試験場、旅客ターミナル建設現場、堤防等に案内された。移動途中もプレローディングやペーパードレーンの現場をバスの中から眺めることができ、非常に充実した見学会となった(写真-1)。

なお、次回第3回大会は台北にて1999年秋に開催される予定であり、Cal新会長(フィリピン運輸通信省次官)、森地茂事務局長(東京大学教授)、宮本和明ISC

新委員長(東北大学教授)らにより既に準備が進められている。

#### 関連報告

- 1) 土井健司: 第1回アジア交通学会 EASTS'95 開催, 土木学会誌, 1995年11月号, p22.
- 2) 土井健司, 渡辺良一: アジア交通学会 EASTS'95 およびインフラ計画国際学生セミナー-ISSIP'95, 土木学会論文集, No.530/IV-30, pp125-126, 1996.

(1997.11.26 受付)